

ともに考え、ともにつくるメディアへ

朝日新聞社代表取締役社長 渡辺 雅隆

わたしは、昨年の記事取り消しなど一連の問題を深く反省し、朝日新聞社の存在意義は何か、一から見つめ直してまいりました。より良い明日をつくっていくために責任を果たし、信頼される報道機関であり続けたい。めざすのは「ともに考え、ともにつくるメディア」です。問題点の指摘や批判にとどまらず、みなさまと社会の課題を共有し、多角的な視点でともに解決策を探る姿勢を大切にします。

朝日新聞社には約4500人の社員がいます。一人ひとりの社員が多様な社会の人々とのかかわりをより広く、より深くできれば、報道をさらに進化させられると考えます。

問題が起きて以来、わたしたちの経営や報道の姿勢に対し、たくさんの厳しいご指摘をいただきました。事実、真実に対する謙虚さが欠けていたこと、社会からのご批判に耳を傾ける姿勢が足りなかったことを深く胸に刻みます。

改革案をまとめるためにつくった「信頼回復と再生のための委員会」を中心に、多くの社員が参加して議論を繰り返し、行動計画を決めました。内向きの狭い視野に陥らないよう、社外の有識者の方々にも助言をいただきました。

わたしが先頭に立ち、一つひとつの具体策を着実に実行していきます。ご支援をいただいているみなさまに改めて感謝申し上げますとともに、信頼にこたえられるよう力の限りを尽くすことを誓います。

以上